



インタビュー

ペア休「夫婦で取り組む育児」

Iさん（40代男性）
妻
第1子 6歳
第2子 1歳



前々回の通信(Vol.17)でも「男性版産休」の法改正をお伝えしたところですが、今月号では、「わたしたちは『ペア休』という選択。」というYouTube動画を制作され、ご自身もペア休を取得されたIさんにインタビューしました！

ケ：最近話題の多い、男性育休ですが、どのような経緯で「ペア休」の動画を撮られたのですか？

I：ファザーリング・ジャパンという団体の仲間の女性から「なんで男性育休を取れないの？」「育休が取りづらい社会を変えたい！」と悲痛な声上がり、それならばと有志の7人が集まり動画制作をすることになりました。

ケ：動画にはどのような想いを込められたのですか？

I：育休が取りにくい理由として、「管理職（上司）に理解がない」ということもありますが、職場にいる同僚等、自分たちが応援することで、理解が進み、育休がとりやすくなるのではないかと、自分目線でできることを考えて作りました。

ケ：シナリオも自分たちで作られたそうですね。

I：はい、自分たちの経験などをもとにリアルなセリフなども入れています（笑）

ケ：Iさんも最近2人目の育休を1カ月間取られたと伺いましたが、いかがでしたか？

I：はい。1人目のときは、5日程度だったのですが、それでも24時間赤ちゃんをお世話することの大変さがよく分かったので、その後も妻となるべく一緒に育児家事をしたつもりでしたが妻は辛そうでした。



今回1カ月間取ろうと思ったのは、実は友人から帝王切開で里帰り出産をした話を

聞いたんです。授乳以外は家族に任せて何もしないでしっかり体を休めると3週間くらいで体がぐんと回復するよと。それで、私が里帰り出産と同じ環境をつくれればいいんだ！と考え、私が出れることはすべてやろうと思いました。

ケ：すばらしい～！！（涙）やってみてどうでしたか？

I：なんでも経験したので、（育児・家事に対して）怖いことがなくなりました！また、お互いにどういうときに大変かが分かるのでいいタイミングで育児を交代できるようになり、本当の意味で育児パートナーになれた気がします。



ケ：お話から「ペア休」の良さが本当に伝わりました！お話をありがとうございました！

☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆

家族の笑顔が増え育休1カ月が終わるころ、奥様から「体もすごく楽！」と嬉しい言葉をもらったそうです♪産後うつが発症しやすい出産後2週～1カ月の間を一緒に育児することは、パートナーシップの重要なカギと言えます。ペア休の動画の中にも出てきた「男は外、女は中」というようなジェンダーバイアスが、育児のみならず、介護・治療など様々なダブルケアをする女性に大きな影響を与えていると感じます。私たちがバイアスを認識し、自分たちができるところから始めることで、周囲が変わり、世の中が変わっていくこともあると思います。ケアケアメンバーもできることをますます深めていきますよ！皆さんも一緒にぜひ。



ぜひ、動画をご覧ください♪ わたしたちは「ペア休」という選択。 - YouTube

「産後うつ」からの回復を支える地域医療



【緑に癒される のぞえの丘病院】

福岡県にある「医療法人コミュニテ風と虹のぞえの丘病院」では、産後うつの女性と1歳までのお子さんの「母子同室での入院治療」に先進的に取り組まれています。取組のきっかけは、緊急性があったこと、子の面倒を見る人がいなかったこと等の理由からでしたがその必要性と思いを堀川奈津子医師に伺いました。

- ①スタッフが家族のように寄り添うことで、人に頼ることができるようになる
 - ②母親の子どもへの関わり方がわかり、退院後の準備サポート（連携）ができる
 - ③併設の企業内保育園を利用することができ、預けることへの良い経験になる
- 「自分が良くなるのが大事」に気づくことが一歩目、と教えていただきました。

～周産期メンタルヘルスグループによる「すくすくサロン」も定期的で開催中～
お問合せ先：福岡県久留米市上津町2543-1 TEL:0942-22-3980

【編集後記】今までは不十分だったケアがようやく少しずつ手厚くなり、こわばっていた表情が笑顔になるのを見ると泣けてしまう。感動やおこは記事を書きながら泣きました・次号は、9月11日発行。お見逃しなく！【連絡先】スマイル☆ケアケア事務局 E-mail: smilecarecare@gmail.com